

業務名：DMV導入検討調査業務委託（平成17年度～平成19年度）

業務の概要

JR北海道で開発中である鉄道軌道を走行可能なバス車両、DMV（デュアルモードビークル）の導入について平成17年度から平成19年度の3カ年にわたり、実現化に向けた具体的な検討を行ってきた。主な検討内容は、法規制動向の整理、需要予測、運行計画の立案、整備効果の算定、構造検討、事業費算定、事業手法検討、市内デモ走行の支援などである。3カ年目調査においてDMV導入基本計画案を策定し、パブリックコメントを実施した。

業務の技術的特徴

富士市のDMVの導入検討についての技術的特徴を以下に示す。

<開発動向、法規制動向の情報収集及び整理>

DMVの開発動向や、監督官庁による法規制の動向が、本市への導入に向けての計画立案に大きく影響すると考えられるため、JR北海道へのヒアリングを実施する等して継続的に最新情報の収集に努めた。

<パーソントリップ調査データを活用した需要予測>

第1回岳南都市圏パーソントリップ調査（平成16年度実査）のデータを活用し、集計ロジットモデルによりモデル構築を行い、需要予測を行った。

予測に際しては、幅を持たせた需要予測を行うこととし、現況ODを低位、開発需要や経路転換等を考慮した場合と中位、高位といった形で、複数ケースについて、検討を行った。次に、ルートをいくつかのブロックに分けて、運行サービス水準を設定し、ピーク時における運行計画案を検討した。

<整備効果の算定>

「鉄道プロジェクトの評価手法マニュアル2005（財）運輸政策研究機構」などに沿って、利用価値に関する整備効果を算定した。また、非利用価値については、富士駅における北口と南口接続を対象とした便益をCVM手法により算定した。

<市内デモ走行の支援>

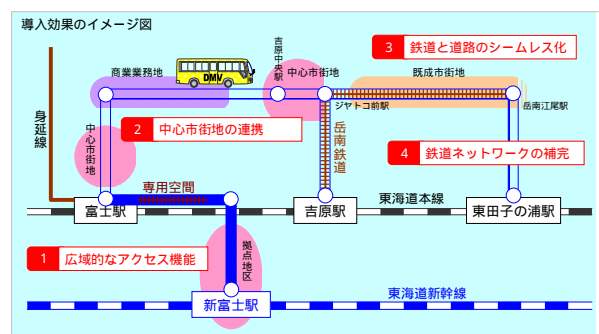
平成18年度業務では、JR北海道から実際に車両を借用し、岳南鉄道で市民向けのデモ走行（試乗）を行うに際し、各種資料の作成や試乗者へのアンケートの立案、実施、集計作業等といった支援を行った。

<事業スキームの検討・財政負担の試算>

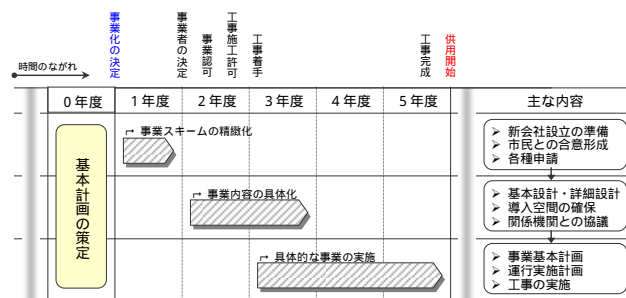
公設民営の場合やPFIを導入した場合を想定し、公共交通を新規に導入・維持していくためには、採算性確保を前提とするのではなく、ある程度の公共による支援（負担）が必要になるとの考えを前提に検討した。具体的には、公共がどれだけ負担すれば、DMVを新規に導入し維持していくことが可能になるかを公共負担額として試算した。

<パブリックコメントの実施と基本計画の策定>

3カ年にわたる検討結果については、市民代表、沿線企業、行政機関、学識経験者から構成される検討会、および専門的な検討においては2つの部会に設置して、基本計画（案）を作成した。パブリックコメントを実施し、市民からの意見も踏まえた上で、基本計画としてとりまとめた。



導入ルートイメージ



導入までのスケジュール

新たな交通システム 導入計画のご提案



八千代エンジニアリング株式会社

最適な交通システムの選定から
事業化検討まで



世界中には様々な交通システムが導入されています。その中には日本の法体系に位置づけられていないため、そのまま我が国へ導入することが困難なシステムが多く存在します。我が国が独自に開発しているシステムであっても、実用段階にありながら法的な位置づけが定まらず、導入の目処が立っていないシステムもあります。

弊社では、このような“新たな交通システム”の導入計画を手がけています。システムの選定から事業化までの一連の検討調査について紹介させていただきます。

パンフレットについてのお問い合わせは・・・

八千代エンジニアリング株式会社 総合事業本部 地域計画部

TEL 03-5906-0546 / FAX 03-5906-0815

メール yec@yachiyo-eng.co.jp

URL <http://www.yachiyo-eng.co.jp>

法的な位置づけがされていない“新たな交通システム”の導入検討における留意点

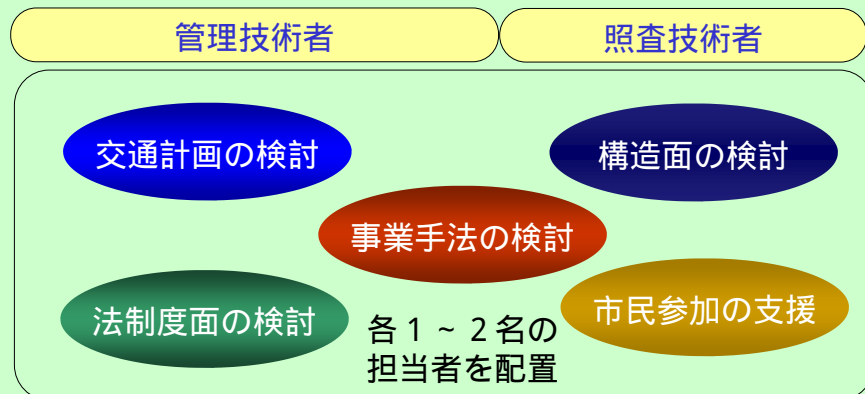
- 1) システムの特徴を踏まえた上で、交通体系における導入システムの位置づけや役割分担を明確にすること
- 2) 導入するシステムが主役になりがち 地域住民や利用する人々が主役です！
- 3) 法的根拠が不明確なため、事業や運営に関する許認可がすぐにはとれない
- 4) 事業手法や事業スケジュールの想定が難しい
- 5) 運営面における対応や維持費の見積りが難しい

“新たな交通システム”の導入検討における主な検討事項

- 1) **法制度面の検討**
 - ・ 法的な位置づけの見通しをつけること
 - ・ 最新情報の収集と最新動向を把握すること
- 2) **事業手法やルート、構造等の技術的な検討**
 - ・ 要求水準 サービス水準を設定すること
 - ・ 実現化するための事業スキームを構築すること
 - ・ 整備効果を明確にすること
- 3) **市民との合意形成**
 - ・ 使い勝手がよくて、より便利なものにすること
 - ・ 持続可能な交通システムにすること

yec 八千代エンジニアリングでは

新たな交通システムの検討においては、交通計画の視点のみならず、まちづくり検討、市民参画、事業化検討、道路空間検討、軌道検討等、様々な視点が必要となります。弊社は総合建設コンサルタント会社として、各専門家から構成するプロジェクトチームにより、高度な技術サービスを提供します。



“新たな交通システム”の導入例

DMV（デュアルモードビークル）導入検討フロー

